

## ベルギーニュース

## トンネル工事

首都ブリュッセルで一番長いレオポルド2世 (Léopold II) トンネルが5/1から39カ月間の改修工事を始める。工事に伴うトンネルの閉鎖は、今春からは日曜日から木曜日の22時～6時まで、および2018年から20年の毎年7・8月に実施される。1986年にKoekelbergのバジリック地区と市内中心のトンネルをつなぐ道路として建設された2.6kmのトンネルに、さらに17カ所の非常出口を設けるが、地上からの外観は損なわれない。また、照明、換気、監視カメラなども一新される。



## 国鉄の現状

2017年、88.3%の列車が定刻または6分以内の遅れで運行された。この値は2016年の89.2%を下回る悪い数字となっている。遅れは、外部要因によるものが多い。具体的には、線路を横断する歩行者や出発直前の乗車などによるセキュリティチェックのために時間が費やされているといい、これらの遅れは日常茶飯事である。国鉄は、今後運輸大臣に毎日状況を報告し、列車の遅れを改善していくという。2017年国鉄の利用者は、1日85万人に達し、前年の3%増となっている。



## 2/1からの変更

## \* 交通費の値上げ

**国鉄**：学生・一般用定期が2.49%、その他は1.49%値上がりするが、Go Pass 10、Rail Pass、1日用のcarte véloの価格は据え置かれる。**TEC**(ワロン地方)：STIB/MIVBのMOBIBカード使用を有利にするため、車内購入の乗車券は€0.50、1回券は€0.30それぞれ値上げし、2/28まで無料でMOBIBカードを提供する。また、複数ゾーンへの乗車券も値上げされる。**De Lijn**(フランダース地方)：《Buzzy Pazz》と《Omnipas》を値上げし、60分有効の1回券が€3(smsからの購入€2.15、スマートフォンからのm-ticket€1.80)となる。また、10回券も€16に変更される。**STIB/MIVB**(ブリュッセル)：値上げなし。

## \* Bankswitching

自動振込用の銀行口座を変更しても、振込先に変更通知をする必要がなくなった。これは、Bankswitchingというシステムで、銀行が自動的に口座番号変更を通知する。

## \* 還付薬品リスト改定

「Dグループの薬」と呼ばれる、健康保険の還付のない薬の購入に関して、CPAS/OCMW(公共社会奉仕センター)が管轄する失業者、貧困者に対して購入価格の一部を還付する制度があるが、このリストが全面的に見直され、対象となる薬品数が800になった。

## 大手スーパー危機

フランスのカルフルの経営難に伴って、ベルギーのカルフルも閉店の危機に迫られており、1/26、27の週末、ワロン地方をはじめブリュッセル市内のカルフル・ハイパーマーケットなどがストライキを起こした。2000年にベルギーの大手スーパーマーケットGBを買い取り、事業を始めたベルギー・カルフルは、フランス・カルフルの2020年に向けての営業改革の犠牲になるのか。フランスでは、2,400人の従業員を解雇する予定で、フランスでも従業員がストライキを起こして、抵抗している。



## 氏名変更できる？

名前変更希望者は、1997年には865人だったが、2017年には2,593人と急増している。具体的には、1,198人が氏を、1,112人が名を、283人が氏名の変更を訴え、うち799人が氏を、1,041人が名の変更を許可されている。氏名変更にかかる諸経費は€490で、馬鹿げた名前や不愉快な名前の変更には€49の割引がある。また、性別の変更による名の変更には€49の経費がかかる。手続きは簡単で、出生証明書、住居および国籍証明書、無犯罪証明書(成人の場合のみ)を申請書とともにSPF Justiceへ提出するだけで、弁護士に依頼する必要はない。判決言い渡しまでには、6～8カ月要する。

## 黙秘を主張

2015/11/15、パリで起こったテロ事件の唯一の生き残り加害者サラ・アブデスラム(Salah Abdeslam)が、ブリュッセル・モーレンベーク区で逮捕される直前にブリュッセル・フォレ区で起こした警官銃撃事件の公判が2/5、ブリュッセル裁判所で行われた。彼はフランスの刑務所に拘置されており、ブリュッセルへの移動は厳重な警戒の下で行われた。裁判所も、あらゆるトラブルを避けるため、建物、地下下水道の点検まで行い、裁判所入場に1時間以上を要するという事態となった。彼の公判以外にも裁判が行われ、弁護士をはじめ関係者の遅刻が相次いだ。9時から始まった公判で、サラ・アブデスラムは「公判に出廷すると言われてきた。私は当事者だが、黙秘する。黙秘は私を有罪にしないし、黙秘そのものは犯罪でもない」と、裁判官の質問を無視した。共犯者Soufien Ayariは、「2016/3/15の件は、すでに話したので繰り返したくない。」と返答。さらに裁判長の質問に対し、「警官を撃ったのは亡くなったBelkaidだ」と答えた。この日、裁判所周辺は、かつてない警備となり、約200人の警官が裁判所内外を監視し、周辺駐車場は使用禁止、裁判所周辺にはコンクリートブロックが並べられて、車両進入禁止となっていた。このような事態は、ユダヤ博物館で殺人事件を起こしたMehdi Nemmoucheの公判でも起こるだろうと予想される。



© visitbrussels Global view - S. Schmit